

3R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

年次報告書

令和4年度版（2022年度版）



令和5年4月

3R活動推進フォーラム

はじめに

気候変動問題、海洋プラスチックごみ問題、生物多様性の損失といった地球環境の危機、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に加え、ロシアによるウクライナ侵攻により深刻な人道危機だけでなく、世界経済全体が成長減速とインフレが加速しています。

我が国においても、2050年カーボンニュートラル及び2030年度の温室効果ガス削減目標の実現に向けて、暮らし、ライフスタイルの分野でも大幅なCO2削減が求められます。

循環経済への移行は、企業の事業活動の持続可能性を高めるため、ポストコロナ時代における新たな競争力の源泉となる可能性を秘めており、動静脈産業の連携等、現に新たなビジネスモデルの台頭が国内外で進んでいます。循環経済の実現は、難しい道のりであるものの、市場経済メカニズムや制度的インフラを総動員して達成することも不可能ではありません。

3R活動推進フォーラムではこのような情勢を踏まえ、3R（リデュース、リユース、リサイクル）、さらには「3R・資源循環」「3R・循環経済」への事業展開を図って参ります。会員の皆様はじめ関係者の皆様のより一層の御指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

なお、本報告書は、令和4年度の3R活動推進フォーラム事業活動等について取りまとめたもので、会員の皆様をはじめ3R活動・資源循環に係る関係者の皆様の今後の業務の参考になれば幸いです。

令和5年4月
3R活動推進フォーラム 会長 細田 衛士

目次

◆3R 活動推進フォーラムについて.....	1
1. 「3R活動推進フォーラム」の沿革～ごみ減量化から3Rへ～	1
2. 3R 活動推進フォーラム事業活動.....	2
3. 3R活動関係年表.....	3
◆令和4年度事業年間スケジュール	7
I 令和4年度事業概要.....	9
1. 3R推進全国大会及び関連事業(令和4年度3R 推進企画運営業務).....	9
2. 連携・協働事業	25
3. 実務講座・相談事業.....	35
4. 広報普及事業.....	38
II 組織運営.....	45
1. 理事会・総会	45
2. 企画・運営委員会.....	49
3. 3R活動推進フォーラム規約等 資料.....	52

◆3R 活動推進フォーラムについて

1. 「3R活動推進フォーラム」の沿革～ごみ減量化から3Rへ～

「3R活動推進フォーラム」の前身は、平成4年(1992)に設立された「ごみ減量化推進国民会議」にあります。平成3年(1991)10月、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が改正され、従来からのごみの適正処理に加え、排出抑制、分別、保管、再生(リサイクル)等による「ごみ減量化」の推進が大きな柱(法目的)として加えられ、同時に国民、事業者、国及び地方公共団体にあって、ごみ減量化の積極的推進が求められることとなりました。そのため、「ごみ減量化」を強力に推進するため、幅広い国民運動を展開する機関として、平成4年(1992)9月、「ごみ減量化推進国民会議」が(社)全国都市清掃会議を事務局として設立されました。その後、同会議では、再生紙利用促進、自動販売機の在り方、包装について具体的な検討作業を精力的に行っています。その結果、平成7年(1995)6月には、再生紙使用マーク(Rマーク)の設定、「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」の制定などが行われてきました。

平成12年(2000)6月、「循環型社会形成推進基本法」が公布されました。21世紀を迎え持続可能な社会を構築するためには、「ごみゼロ型社会」すなわち「循環型社会」への転換を推進することが強く求められることとなりました。そのため、平成14年(2002)7月、「ごみ減量化推進国民会議」から、更に一步踏み込んだ「ごみゼロ型社会づくり」(循環型社会づくり)の活動へと進むべく、「ごみゼロパートナーシップ会議」へと改称されました。

平成17年(2005)4月、我が国は「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」(ゴミゼロ国際化行動計画)を発表し、国内での循環型社会づくりを基礎として3Rの国際的推進に主導的役割を果たすことを世界に宣言しました。こうした国際的な動きを踏まえ、我が国の循環型社会づくりの一層の加速化と地球規模での循環型社会の形成に寄与することが求められてきました。そのため、3Rに関する社会的取組や先進的技術による取組をさらに進めるほか、会員相互の連携した活動の展開など、循環型社会への変革を強く意識した3R活動を一層推進するため、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ、平成18年(2006)1月、「3R活動推進フォーラム」(会長：加藤三郎環境文明研究所代表)が発足しました。そして、平成19年(2007)5月、(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団(平成23年12月に(公財)廃棄物・3R研究財団に移行)に事務局が移り、現在に至っています。

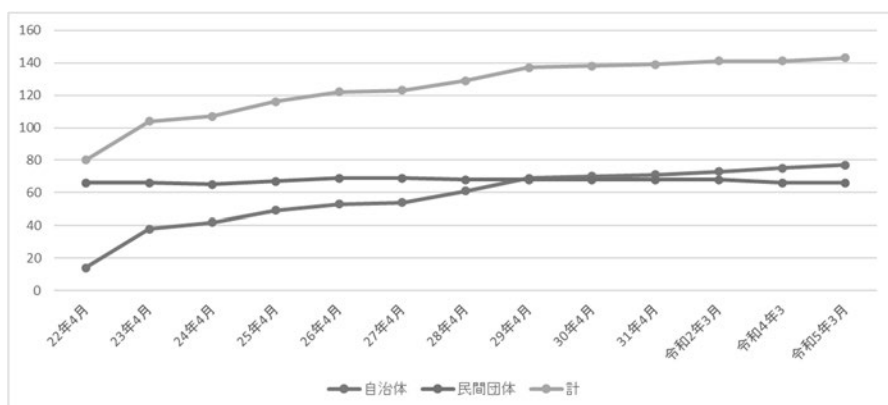
・歴代会長

初代	平成18年1月から平成18年5月	環境文明研究所代表	加藤三郎氏
第2代～第3代	平成18年5月から平成22年4月	東京大学総長	小宮山宏氏
第4代～第5代	平成22年4月から平成26年5月	東京大学大学院教授	武内和彦氏
第6代～第10代	平成26年5月から現在	東海大学副学長	細田衛士氏

・会員数

会員は、自治体会員77、民間会員66、合わせて143会員(令和5年3月現在)

【会員数推移表】 ※令和元年度から年度末の会員数とした。



2. 3R 活動推進フォーラム事業活動

3R活動推進フォーラムは、3Rに関する以下の事業等を実施しています。

- ① 3Rに関する研鑽・啓発
- ② 3Rに関する先進的事業の実施・支援
- ③ 3Rに関する調査研究の実施・支援
- ④ 3Rに関する国内外の情報の収集、提供など

また、第四次循環型社会形成推進基本計画等を踏まえ、これらの計画が求めている循環型社会の形成に向けて、各主体が連携・協働した取組に貢献すべく、以下の事業等を実施することとしています。

(1) 3R推進全国大会及び関連事業

3R推進全国大会は毎年10月に環境省と3R活動推進フォーラム、自治体等の共同で開催しています。国民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会の形成に関するそれぞれの知識や経験を交換するとともに、参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供し、ごみの減量・再資源化などの3R推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組を推進することを目的としています。

(2) 連携・協働事業

フォーラムの会員団体などとのセミナー等の共同開催や3R推進地方大会等への協力・後援等による連携を強化し、3R活動の推進事業の推進、拡大に努めます。

(3) 実務講座・相談事業

自治体及び会員団体を対象に3R・資源循環に関する研修・学習相談事業のニーズを把握し、研修セミナーを実施していきます。

(4) 広報普及事業

フォーラムの活動状況を年次報告書などにとりまとめ広報するとともに、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」や「事務局通信」の配信、ホームページ、展示会への出展等を通して、広く3Rの推進を啓発・普

及していきます。また、ガイドラインに沿ったRマーク表示の啓発・普及を行っています。

3. 3R活動関係年表

年	3R・循環 関連法など	活動の歴史	経済・社会情勢
1970 (昭和45)	廃棄物処理法の公布		
1971 (昭和46)	環境庁の設置		変動相場制へ
1986 (昭和61)	ごみ処理施設構造指針の改正		
1988 (昭和63)	廃棄物最終処分場指針の改正		
1989 (平成元)	5月 ヘルシンキ宣言採択「フロンを2000年までに全廃」 12 鈴木都知事、都議会でゴミの非常事態を宣言	8月 財団法人廃棄物研究財団設立	消費税施行、税率3% 米ソ首脳「マルタ会談」 東西冷戦終結
1990 (平成2)	12月 「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」(旧ガイドライン)の策定	3月 廃棄物学会設立	株価暴落、バブル景気の崩壊
1991 (平成3)	4月 「再生資源有効利用促進法」公布 10月 「廃棄物処理法」改正 法の目的にごみの減量化・発生抑制、再生(リサイクル)の推進が導入		湾岸戦争
1992 (平成4)	6月 地球サミット、リオ・デジャネイロで開催 リオ宣言「アジェンダ21」	9月 「 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 」発足((社) <u>全国都市清掃会議 事務局</u>) 第1回ごみ減量化推進全国大会(岡山県、岡山市)	
1993 (平成5)	11月 「環境基本法」公布	11月 第2回ごみ減量化推進全国大会(東京都)	
1994 (平成6)	12月 「環境基本計画※」閣議決定	5月 ごみ減量化推進国民会議、「再生紙利用促進のための具体的行動目標」採択 9月 第3回ごみ減量化推進全国大会(大阪府、大阪市)	
1995 (平成7)	6月 「容器包装リサイクル法」公布 「再生紙使用マーク」(Rマーク)設定 「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」制定	6月 ごみ減量化推進国民会議、「包装・容器の減量化に関する指針」採択 9月 第4回ごみ減量化推進全国大会(千葉県、千葉市)	阪神・淡路大震災

1996 (平成 8)		10月 ごみ減量化推進国民会議、「PET ボトルのあり方についての検討委員会報告書」発表 第 5 回ごみ減量化推進全国大会(福岡県、福岡市、北九州市)	
1997 (平成 9)	1 月 「ごみ処理におけるダイオキシン類発生防止ガイドライン」(新ガイドライン)	6 月 ごみ減量化推進国民会議、「再生紙利用促進のガイドライン」採択 10 月 第 6 回ごみ減量化推進全国大会(宮城県、仙台市)	金融機関の連鎖的破綻
1998 (平成 10)	6 月 「家電リサイクル法」公布 10 月 「地球温暖化対策法」公布	6 月 ごみ減量化推進国民会議、再生紙利用促進のガイドライン(改正)」採択 10 月 第 7 回ごみ減量化推進全国大会(兵庫県、神戸市)	
1999 (平成 11)	7 月 「ダイオキシン類対策特別措置法」公布	10 月 第 8 回ごみ減量化推進全国大会(埼玉県、浦和市)	
2000 (平成 12)	6 月 「循環型社会形成推進基本法」公布 「廃棄物処理法等」の改正 「再生資源利用促進法」の改正 「建設資材リサイクル法」「グリーン購入法」 「食品リサイクル法」公布 12 月 「第 2 次環境基本計画」閣議決定	10 月 第 9 回ごみ減量化推進全国大会(広島県、広島市)	
2001 (平成 13)	1 月 中央省庁再編により環境省が廃棄物・リサイクル行政を所管 4 月 資源の有効な利用の促進に関する法律の施行	10 月 第 10 回ごみ減量化推進全国大会(北海道、札幌市)	9.11 アメリカ同時多発テロ
2002 (平成 14)	7 月 「自動車リサイクル法」公布	7 月 第 10 回総会、「 <u>ごみゼロパートナーシップ会議</u> 」に改称 11 月 第 1 回ごみゼロ推進全国大会(徳島県、徳島市)	
2003 (平成 15)	3 月 「循環型社会形成推進基本計画」公表	10 月 第 2 回ごみゼロ推進全国大会(富山県、富山市)	
2004 (平成 16)	6 月 G 8 シーアイランドサミット「神戸 3 R 行動計画」小泉首相が 3 R イニシアティブを提唱	10 月 第 3 回ごみゼロ推進全国大会(静岡県、静岡市)	
2005 (平成 17)	2 月 「京都議定書」発効	10 月 第 4 回ごみゼロ推進全国大会(長崎県、長崎市)	「愛・地球博」愛知県で

	<p>4月 「3Rイニシアティブ閣僚会合」を東京で開催</p> <p>「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」(ゴミゼロ国際化行動計画)発表</p> <p>6月 「クールビズ」開始</p>	<p>県、佐世保市)</p>	<p>開幕</p>
<p>2006 (平成18)</p>	<p>3月 「3Rイニシアティブ高級事務レベル会合」を東京で開催</p> <p>4月 「第3次環境基本計画」閣議決定</p>	<p>1月 「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ「3R活動推進フォーラム」発足</p> <p>初代会長 加藤三郎環境文明研究所代表が就任</p> <p>5月 2代目会長に小宮山宏東京大学総長が就任</p> <p>10月 第1回3R推進全国大会(愛知県、名古屋市)</p>	
<p>2007 (平成19)</p>	<p>5月 「ごみ不法投棄監視ウィーク」がスタート</p> <p>6月 「21世紀環境立国戦略」閣議決定</p> <p>「3Rを通じた持続可能な資源循環」を推進</p> <p>G8ハイリゲンダム・サミット地球温暖化問題</p>	<p>5月 <u>事務局が(社)全国都市清掃会議(現(公社)全国都市清掃会議)から(財)廃棄物研究財団(現(公財)廃棄物・3R研究財団)に移る</u></p> <p>10月 第2回3R推進全国大会(福岡県、北九州市)</p>	
<p>2008 (平成20)</p>	<p>3月 「循環型社会形成推進基本計画」改訂</p> <p>7月 G8北海道洞爺湖サミット</p>	<p>10月 第3回3R推進全国大会(山形県、山形市)</p>	
<p>2009 (平成21)</p>		<p>10月 第4回3R推進全国大会(千葉市)</p>	
<p>2010 (平成22)</p>		<p>4月 会長に武内和彦東京大学大学院教授が就任</p> <p>11月 第5回3R推進全国大会(佐賀県、佐賀市)</p>	
<p>2011 (平成23)</p>	<p>8月 東日本大震災により生じた廃棄物の処理の特例に関する法律公布</p> <p>8月 「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」公布</p>	<p>10月 第6回3R推進全国大会(京都市)</p> <p>12月 (公財)廃棄物・3R研究財団設立</p>	<p>東日本大震災</p>

2012 (平成 24)	4 月 「第 4 次環境基本計画」閣議決定 8 月 「特定産業廃棄物特別措置法」一部改正法律公布 8 月 「小型家電リサイクル法」公布	10 月 第 7 回 3 R 推進全国大会 (東京都内)	
2013 (平成 25)	5 月 「第三次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定	10 月 第 8 回 3 R 推進全国大会 (栃木県)	
2014 (平成 26)		5 月 会長に細田衛士慶應大学経済学部教授が就任 10 月 第 9 回 3 R 推進全国大会 (相模原市)	消費税 5 % から 8 % に引き上げ
2015 (平成 27)	11 月 第 21 回気候変動枠組条約締約国会議 (COP21) バリ協定	11 月 第 10 回 3 R 推進全国大会 (福井県)	
2016 (平成 28)	3 月 「特定家庭用機器廃棄物回収率目標達成アクションプラン」策定 5 月 G 7 富山環境大臣会合 5 月 G 7 伊勢志摩サミット	10 月 全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会設立 10 月 第 11 回 3 R 推進全国大会 (徳島県)	熊本地震
2017 (平成 29)		10 月 第 12 回 3 R 推進全国大会 (沖縄県)	
2018 (平成 30)	4 月 「第五次環境基本計画」閣議決定 6 月 「第四次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定	10 月 第 13 回 3 R 推進全国大会 (富山県)	
2019 (令和元)	5 月 「食品ロス削減推進法」公布 「プラスチック資源循環戦略」策定 6 月 G 2 0 軽井沢環境大臣会合 6 月 G 2 0 大阪サミット	10 月 第 14 回 3 R 推進全国大会 (新潟市)	消費税 10%
2020 (令和 2)	7 月 レジ袋の有料化	10 月 第 15 回 3 R 推進全国大会 (和歌山県を延期)	新型コロナウイルス感染症拡大
2021 (令和 3)	6 月 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」公布	10 月 第 15 回 3 R 推進全国大会 (和歌山県)	静岡県熱海市で土石流
2022 (令和 4)	4 月 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」施行 9 月 「第四次循環型社会形成推進基本計画」の第 2 回点検及び循環経済工程表の策定 10 月 「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」及び官民連携協議会発足	10 月 第 16 回 3 R 推進全国大会 (オンライン・東京都内)	ロシア軍のウクライナ侵攻
2023 (令和 5)		10 月 第 17 回 3 R 推進全国大会 (秋田県) 予定	トルコ・シリア大地震

◆令和4年度事業年間スケジュール

月	セミナー・シンポジウム等	連携活動、審査会、理事会等	広報関連、講師活動等
4月		令和4年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰推薦開始 ・散乱防止・美化キャンペーン（三浦海岸）	・事務局通信No.70 配信 ・3R、廃棄物 NEWS 配信 ・スチール缶リサイクル協会「実践活動としてのスチール缶を含む集団回収を通じて環境教育に取り組む小学校及び中学校への支援業務」後援
5月		・3R活動推進フォーラム第17回理事会書面開催	・3R、廃棄物 NEWS 配信
6月		・3R活動推進フォーラム第17回総会書面開催 ・令和4年度3R促進ポスターコンクール募集開始 ・持続可能環境センター（3R・低炭素社会検定）総会・運営委員会	・3R、廃棄物 NEWS 配信
7月		・3R活動推進フォーラム企画運営委員会 ・散乱防止・美化キャンペーン（愛媛）	・事務局通信No.71 配信 ・3R、廃棄物 NEWS 配信 ・令和4年度建設副産物リサイクル広報用ポスター 後援 ・令和3年度不法投棄の監視・啓発活動等の取組実績の報告
8月	・容器包装の3Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会 IN 青森 ・青森県・青森市等の地元関係者とプラ協等の意見交換会	・令和4年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰審査会	・3R、廃棄物 NEWS 配信
9月		・令和4年度3R促進ポスターコンクール審査会 ・持続可能環境センター運営委員会	・事務局通信No.72 配信 ・3R、廃棄物 NEWS 配信
10月	・第16回3R推進全国大会	・第15回3R・低炭素社会検定試験講習会開催 ・とやま環境フェア2022（WEB出展） ・廃棄物・3R研究財団&3R活動推進フォーラム年次報告会	・3R推進月間用ポスター（令和3年度版）の公開 ・3R促進ポスターコンクール展示（GEOC） ・3R、廃棄物 NEWS 配信
11月	・環境省主催地方セミナー「プラスチック資源循環法及び循環経済工程表について」（富山）	・第15回3R・低炭素社会検定試験開催 ・散乱防止・美化キャンペーン（三重）	・令和4年度3R促進ポスターコンクール展示（YOKOHAMA RePLASTIC フォーラム）

	<ul style="list-style-type: none"> ・容器包装の3Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会 IN 奈良 ・市町村 プラスチック資源循環 研修会 (奈良) 		<ul style="list-style-type: none"> ・3R システム事業化促進支援事業成果発表会講演 ・2022 建設リサイクル技術発表会 後援 ・事務局通信No.73 配信 ・3R、廃棄物 NEWS 配信
1 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回(令和4年度)3R・循環経済先進事例研究発表会(3R + Renewable) ・環境省主催地方セミナー「プラスチック資源循環法 及び循環経済工程表について」(愛媛) 		<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度(公社)神奈川県産業資源循環協会 横浜地区セミナー研修講話 ・3R、廃棄物 NEWS 配信 ・会員向けサービス動画配信開始 ・令和4年度3R促進ポスターコンクール 展示用パネル貸出開始
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省主催地方セミナー「プラスチック資源循環法 及び循環経済工程表について」(兵庫) 		<ul style="list-style-type: none"> ・第17回容器包装3R推進フォーラム 後援 ・3R、廃棄物 NEWS 配信
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・容器包装の3Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会 IN 鹿児島 ・令和4年度プラスチック資源循環研修会(鹿児島) ・循環・3R リレーセミナー～脱炭素社会における資源循環(3R + Renewable)～ 		<ul style="list-style-type: none"> ・3R、廃棄物 NEWS 配信
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・3R活動推進フォーラム企画運営委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・3R、廃棄物 NEWS 配信 ・令和4年度容器包装交流セミナー報告書 発行

I 令和4年度事業概要

3 R活動推進フォーラムは、循環型社会の形成・3 R推進のため、環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室のご指導のもと、国内における普及啓発事業を実施している。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、3 R推進全国大会は第一部を対面で開催、第二部をオンラインで開催、3回のセミナーはオンライン開催にて実施した。また、プラスチック資源循環法が令和4年4月1日から施行されたことを踏まえ、法律の概要や情報提供、先進事例発表等を行うためのセミナーや勉強会を環境省、都道府県、会員等と連携し、業界を超えたステークホルダーと共同で循環型社会構築への取組を進めていくように努めた。

1. 3R推進全国大会及び関連事業(令和4年度3R推進企画運営業務)

(1) 第16回3R推進全国大会

環境省、3 R活動推進フォーラムの主催による「第16回3 R推進全国大会」は、10月27日(木)13時から、東京ウイメンズプラザを配信拠点として開催した。

第I部の大会式典では、循環型社会形成推進功労者、3 R促進ポスターコンクール最優秀賞の表彰を行った。

第II部の記念シンポジウムでは、「ライフサイクル全般での資源循環に基づく脱炭素化の取組の推進 ～プラスチック資源循環と循環経済への移行を加速するための循環経済工程表～」をテーマに、プラスチック資源循環促進法や循環経済工程表の情報提供、循環型社会の形成に向けて3 R推進の必要性、今後の3 R推進方策に関する理解を深めるため講演とパネルディスカッションを行った。

関連イベントとして幅広い関係者による3 R・循環型社会形成の取組を紹介する展示コーナーや施設見学会をオンラインで実施した。

開催日時：2022年10月27日(木)13:00～16:30

開催拠点：東京ウイメンズプラザ(東京都渋谷区神宮前5-53-67) YouTube 配信

開催主体：環境省・3 R活動推進フォーラム

参加者：申込者 329名 会場来場(関係者)者 50名 計 379名

プログラム：敬称略

◇第I部 大会式典 13:00～13:40

- ・開会挨拶 主催者挨拶(環境省、3 R活動推進フォーラム)
- ・表彰式
 - 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
 - 3 R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰
- ・記念撮影



◇第Ⅱ部 記念シンポジウム 14:00～16:30

・基調講演

「プラスチックの資源循環と脱炭素化の取組の推進」

3R活動推進フォーラム会長、東海大学副学長・政治経済学部経済学科教授、
慶應義塾大学名誉教授 細田衛士

・特別講演

「2050年の循環型社会に向けて～循環経済工程表～」

環境省環境再生・資源循環局循環型社会推進室長 水谷努

・パネルディスカッション

「ライフサイクル全般でのプラスチック資源循環の方向性」

(コーディネーター) 3R活動推進フォーラム副会長、

NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット顧問 崎田裕子

(講師1) 全日本プラスチックリサイクル工業会

いその株式会社代表取締役社長 磯野正幸

(講師2) 福岡筑後プラスチックリサイクルループ推進協議会

九州大学芸術工学研究院未来共生デザインコース・教授 近藤加代子

(講師3) 東京都環境局資源循環推進部専門課長 古澤康夫

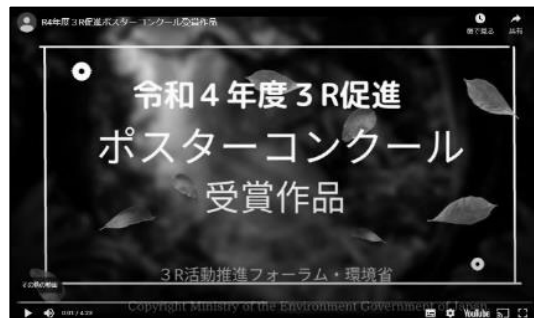
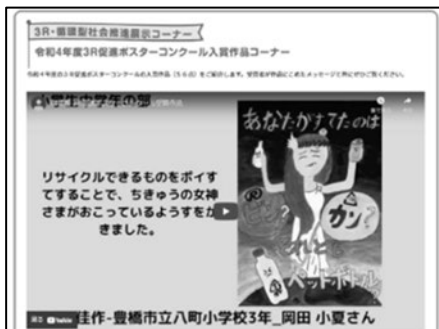
(講師4) 環境省環境再生・資源循環局循環型社会推進室長 水谷努



◇関連イベント

3R・循環型社会推進展示コーナー

・令和4年度3R促進ポスターコンクール入賞作品コーナー



・ 3R・循環型社会推進関連団体のコーナー

3R・循環型社会形成を推進する先進的な取組を進められている団体活動を公募し、10団体12動画を配信した。

※順不同 敬称略

- 一般社団法人日本有機資源協会
- NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット
- リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
- ガラスびん3R促進協議会
- 3R推進団体連絡会
- スチール缶リサイクル協会
- 一般社団法人持続可能環境センター
- プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
- 公益財団法人日本環境協会こどもエコクラブ全国事務局
- 段ボールリサイクル協議会



・施設見学会

事前に録画編集を行い、大会当日10月27日10:00よりYouTube動画で配信した。

A ライオン株式会社



B 株式会社ナカダイ・株式会社モノファクトリー



(2) 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰審査等業務

循環型社会形成推進功労者を表彰する制度は、廃棄物の発生量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の適切な推進に顕著な功績があった個人、企業、団体を表彰し、その功績をたたえとともに、循環型社会の形成の推進に資することを目的に、毎年環境省が実施しているもので、令和4年度は全国で3R活動優良企業6件、3R活動推進功労団体4件、合計10件が受賞した。なお、表彰式は第16回3R推進全国大会式典の席で行われた。令和4年度は3R活動推進フォーラムから2件の推薦を行った。（結果については図1）



3 R 活動推進功労団体

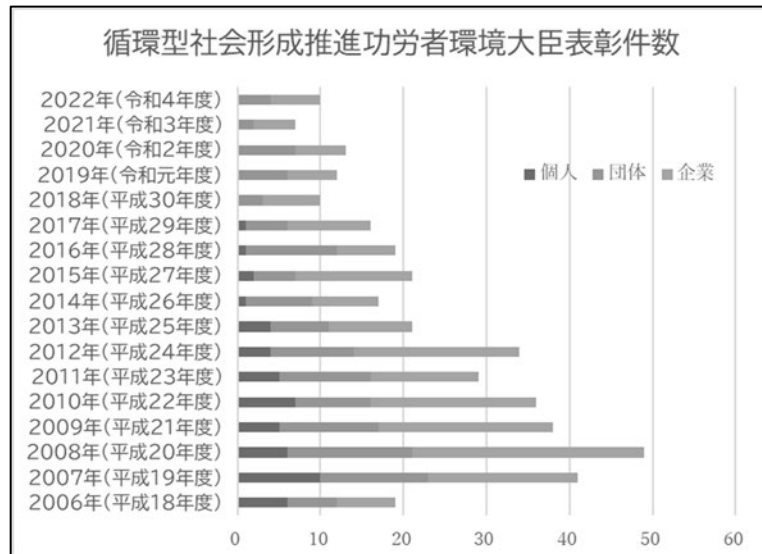
図 1

推薦者	氏名等	功績内容
埼玉県	ファイバーリサイクルの会	平成8年の設立以来、所沢市民から持ち込まれた着物を選別し、きれいな物は頒布し、一部汚れているものはバックやチュニック、巾着袋を作る講習会を開催。令和3年度には1716kgの着物をリユースし、焼却ごみ減量に貢献するとともに、講習会を通じてもったいない心の啓発にもなっている。
富山県	滑川市立滑川中学校生徒会	平成4年から育成会と連携し、校区内の全世帯約7千世帯に協力を呼びかけて、年2回、古紙やアルミ缶等を回収している。令和3年度はコロナ禍で回収量が少なくなったが、多い時は年150トンもの資源の回収をした。さらに地域の祭礼行事の後のごみ拾いとごみの分別活動を行うなど、地域にとってなくてはならない活動となっている。
静岡県	富用品市「ピタゴラス」富塚	平成27年から、自分では使わないがまだ十分使える不要品を持ち寄り、それを必要とする人は入場料100円でいくつでも無料で持ち帰ることができる交換会を開催。これまで約150回開催し、約8万点を循環させた。さらに浜松市内外9か所に波及するなど、持続可能な地域社会の構築に寄与している。
3R活動推進フォーラム	一般社団法人エコ再生紙振興会	平成23年から、神奈川県大井町の公立小中学校及び生涯学習センター等で町民から回収された使用済み書道紙を提携するパルプ会社や製紙会社で再生し、次年度以降再び書道用紙として使用する活動を実施。授業では活動の趣旨や効果の説明をすることにより環境教育としての効果がある。県西部地区や熱海市の小学校、書道業界へも波及している。

3 R 活動優良企業

推薦者	氏名等	功績内容
青森県	ゆうき青森農業協同組合	当農業協同組合は、全国でも有数のながいも取扱量を誇っているが、毎日約40 tの出荷に対して4.6トンの残渣が発生している。平成28年度からながいも残渣を原料としたメタン発酵の実証事業を行い、平成30年からは本格稼働した。その結果、廃棄物処理費用の削減と売電収入を得る仕組みを構築した。
京都府	株式会社 日進FULFIL 京丹後事業所 (旧(株)白石バイオマス)	会社設立の平成19年からバイオマスとプラスチックの複合化の研究を行い、抗菌性や消臭性の高い米ぬか等を材料にしたバイオマスプラスチックのごみ袋や防護エプロン等の製品を開発。ごみ袋は京丹後市の指定ごみ袋に採用されている。その他、木粉を配合したバイオマスプラスチックを開発する等、バイオマスの特性を活かした製品を作り出している。
福岡県	リックス株式会社	金属精錬時には、製紙会社から出る「製紙スラッジ」を利用してきたが、製紙会社内の発電燃料に使われるようになり、入手困難となっていた。そこで平成28年から、その代替として「廃棄人工大理石」を活用した製品を開発。従来品より高性能で使用量を2割削減でき、廃棄物の削減と有効活用に寄与している。
福岡県	株式会社丸和技研	平成26年度から、廃棄物として処理されていた金属加工用の切削工具を短時間・低コストで破砕する独自技術を開発するとともに、分級した破砕粒を鋼板等の母材に溶接して「耐摩耗鋼板」を製造する技術を開発した。従来品よりも3倍以上の耐用時間を実現し、ランニングコストの低減につながることで精錬所で採用され、廃棄物の削減と有効活用に寄与している。
福岡県	株式会社カステラ本家種砂屋 福岡支店	平成30年に、自社の食品ロス削減を検討し、カステラの生産過程で出る切れ端部分や規格外の商品を二度焼くことでラスクのように加工した新商品を製造販売し、収益の一部をフードバンクに寄付。平成3年度までに重量換算で20トン以上の食品ロス削減となった。
3R活動推進フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> ・いであ株式会社 ・株式会社E&Eテクノサービス ・有限会社鎌田工業所 ・第一カッター興業株式会社 ・東芝環境ソリューション株式会社 ・日本精機株式会社 ・日本通運株式会社 ・株式会社日立製作所 ・北陸電機製造株式会社 ・三井造船特機エンジニアリング株式会社 ・三菱電機プラントエンジニアリング株式会社 	平成16年から、高濃度PCB廃棄物の処理を進めるため、そのままPCB廃棄物処理施設に運搬できない超大型トランスについて、それぞれの保管場所で運搬や搬入可能となるサイズ、荷姿に整えるため、高い安全性を確保しつつ現場での抜油、洗浄、解体の技術開発や現場での作業に尽力し、処理不可能といわれていた地下保管等の搬出不可の超大型トランスの処理完了に貢献した。

・表彰数の推移



年度	個人	団体	企業	合計
2006年(平成 18 年度)	6	6	7	19
2007年(平成 19 年度)	10	13	18	41
2008年(平成 20 年度)	6	15	28	49
2009年(平成 21 年度)	5	12	21	38
2010年(平成 22 年度)	7	9	20	36
2011年(平成 23 年度)	5	11	13	29
2012年(平成 24 年度)	4	10	20	34
2013年(平成 25 年度)	4	7	10	21
2014年(平成 26 年度)	1	8	8	17
2015年(平成 27 年度)	2	5	14	21
2016年(平成 28 年度)	1	11	7	19
2017年(平成 29 年度)	1	5	10	16
2018年(平成 30 年度)	0	3	7	10
2019年(令和元年度)	0	6	6	12
2020年(令和 2 年度)	0	7	6	13
2021年(令和 3 年度)	0	2	5	7
2022年(令和 4 年度)	0	4	6	10

(3) 3R 促進ポスターコンクール選定等業務

環境省と3R活動推進フォーラムでは、循環型社会の実現に向けて、毎年「3R促進ポスターコンクール」を実施している。公募は、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中学生の部の4部門で行われ、令和4年度3R促進ポスターコンクールには、全国から合計5,905点の応募があった。審査の結果、各部門で最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点が選定された。(募集状況は図2)

①応募作品到着 2022年8月下旬～9月9日(締め切り)



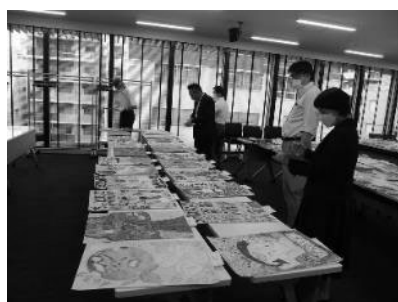
②1次審査会(廃棄物・3R研究財団 8階大会議室)

2022年9月26日(月)



③2次審査会(浅草橋ヒューリックホール&カンファレンス ROOM1)

2022年9月28日(水)



本年度は応募総数5,905作品。環境省立ち合いのもと第一次審査会で選考された235作品の中から、各部門で最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点、4部門計56点を選出した。審査方法としては、部門ごとに優秀と思われる作品10点を各委員が無記名で選出し、それぞれの部門の得票数の高い方から最優秀賞、優秀賞、佳作とした。部門別・県別の応募数は図2の通り。

図2

令和4年度3R促進ポスターコンクール部門別・県別応募数

都道府県	小学生低学年	小学生中学年	小学生高学年	中学生	計
北海道	1	1	0	11	13
青森県	0	0	1	3	4
岩手県	0	0	10	7	17
宮城県	8	44	60	26	138
秋田県	7	15	22	1	45
山形県	0	4	7	6	17
福島県	1	1	1	24	27
茨城県	42	116	113	86	357
栃木県	0	0	0	0	0
群馬県	23	82	66	125	296
埼玉県	132	225	268	82	707
千葉県	13	90	110	12	225
東京都	30	72	45	41	188
神奈川	17	47	60	39	163
新潟県	0	2	0	0	2
富山県	1	15	4	20	40
石川県	2	19	35	0	56
福井県	2	7	13	14	36
山梨県	6	8	13	0	27
長野県	0	4	29	10	43
岐阜県	6	19	11	19	55
静岡県	48	92	85	47	272
愛知県	253	606	623	496	1,978
三重県	1	1	2	10	14
滋賀県	0	1	4	20	25
京都府	4	5	7	0	16
大阪府	1	65	3	28	97
兵庫県	19	76	71	65	231
奈良県	0	0	0	0	0
和歌山県	0	0	0	6	6
鳥取県	0	0	0	3	3
島根県	0	0	0	0	0
岡山県	6	11	21	12	50
広島県	0	23	2	0	25
山口県	0	3	4	9	16
徳島県	0	0	0	8	8
香川県	32	58	70	47	207
愛媛県	16	33	68	59	176
高知県	0	0	0	0	0
福岡県	2	45	14	6	67
佐賀県	1	12	13	14	40
長崎県	0	0	0	0	0
熊本県	0	38	27	13	78
大分県	0	15	2	21	38
宮崎県	1	4	8	27	40
鹿児島県	2	9	13	34	58
沖縄県	0	0	0	4	4
計	677	1,868	1,905	1,455	5,905

3R 令和4年度3R促進ポスターコンクール入賞作品

環境省と3R活動推進フォーラムが主催する令和4年度3R促進ポスターコンクールは、5月23日から小学生低学年の部、小学生中学年の部、小学生高学年の部、中学生の部の4部門で公募が行われ、9月9日までに全国から合計5,905点の応募がありました。

審査の結果、各部門で最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点が選定されました。

最優秀賞

◆小学生低学年の部



香川県観音寺市立
豊浜小学校1年
篠原 遥俊さん

◆小学生中学年の部



愛知県小牧市立
小牧原小学校4年
林内 佐和さん

◆小学生高学年の部



愛知県北名古屋市長
師勝西小学校6年
萩原 瑠花さん

◆中学生の部



静岡県浜松市立
細江中学校1年
藤田 里桜さん

小学生低学年(1・2年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



京都府宇治市立
御蔵山小学校 2年
沼辺 愛莉さん



埼玉県鶴ヶ島市立
栄小学校 2年
新井 廣太郎さん



埼玉県加須市立
三俣小学校 1年
大竹 柚舞さん

◆佳作



愛知県稲沢市立
大里西小学校 2年
橋本 沙耶さん



愛知県稲沢市立
稲沢西小学校 2年
竹内 沙帆さん



北海道札幌市立
藻岩小学校 1年
内海 真愛姫さん



茨城県下妻市立
磯波ノ江小学校 2年
岩本 泰地さん



群馬県館林市立
第五小学校 2年
大すぎ けいすけさん



静岡県浜松市立
中川小学校 1年
阿左見 悠さん



山形県鶴岡市立
朝陽第一小学校 1年
柳沢 樹さん



愛知県大府市立
東山小学校 2年
山田 朱莉さん



香川県善通寺市立
吉原小学校 2年
秋山 紀菜さん



愛知県大府市立
共和西小学校 2年
松井 葵さん

小学生中学年(3・4年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

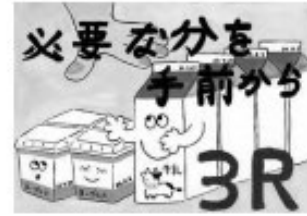
◆優秀賞



愛知県安城市立
今池小学校 4年
田中 智大さん



愛知県豊橋市立
高根小学校 3年
土屋 彩羽さん



神奈川県小田原市立
久野小学校 4年
瀧井 心柊さん

◆佳作



静岡県浜松市立
東小学校 4年
武信 杏周さん



愛知県西尾市立
津平小学校 4年
竹内 里咲さん



愛知県豊橋市立
八町小学校 3年
岡田 小夏さん



兵庫県加古川市立
平荘小学校 4年
天川 桜汰さん



佐賀県鳥栖市立
麓小学校 4年
楠田 蒼大さん



茨城県石岡市立
府中小学校 4年
カルデラ 紗亜美さん



愛知県刈谷市立
住吉小学校 4年
松田 永羽さん



石川県国立金沢大学
人間社会学域学校
教育学類附属小学校 3年
岡 楓さん



千葉県旭市立
共和小学校 4年
疋田 紗瑛さん



千葉県我孫子市立
根戸小学校 3年
甲斐荘 悠真さん

小学生高学年(5・6年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



静岡県浜松市立
竜禅寺小学校 6年
宮司 来実さん



香川県観音寺市立
一ノ谷小学校 6年
田埜 未来さん



茨城県取手市立
戸頭小学校 6年
駒木 東さん

◆佳作



秋田県にかほ市立
象潟小学校 6年
石垣 結捺さん



埼玉県朝霞市立
朝霞第六小学校 6年
富田 千恵さん



香川県観音寺市立
豊浜小学校 5年
近藤 桜さん



兵庫県加東市立
滝野南小学校 6年
大西 莉緒さん



宮城県大和町立
吉岡小学校 5年
遠藤 成悟さん



東京都文京区立
金富小学校 6年
垣川 達頼さん



香川県高松市立
植田小学校 6年
谷 理音さん



埼玉県鶴ヶ島市立
長久保小学校 6年
上野 このみさん



岡山県玉野市立
八浜小学校 5年
三木 杏珠さん



愛知県西尾市立
西野町小学校 6年
畠山 楽樹さん

中学生の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



兵庫県加古川市立
永丘中学校 3年
清水 碧さん



兵庫県加古川市立
永丘中学校 3年
鈴木 利旺さん



兵庫県加古川市立
永丘中学校 3年
田尻 舞子さん

◆佳作



愛媛県八幡浜市立
八代中学校 2年
菊池 紗衣さん



鹿児島県始良市立
帖佐中学校 1年
小倉 若菜さん



茨城県結城市立
結城中学校 2年
田口 ゆいさん



愛知県豊田市立
井郷中学校 3年
内山 ゆいさん



東京都江東区立
深川第八中学校 3年
持井 望日子さん



香川県高松市立
協和中学校 2年
小西 穂乃花さん



東京都江東区立
深川第八中学校 3年
高松 莉緒さん



東京都墨田区立
壁川中学校 2年
山中 美羽さん

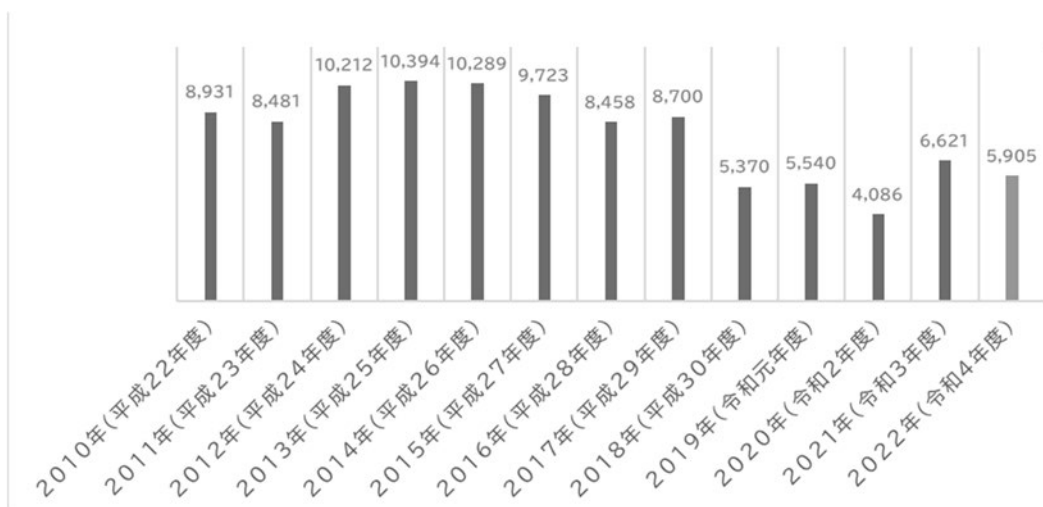


兵庫県明石市立
望海中学校 3年
原田 拓真さん



愛知県刈谷市立
朝日中学校 3年
久保 胡心さん

・総応募点数応募件数推移



・受賞作品 PR 例

愛知県北名古屋市 収集車の側面に愛知県北名古屋市入賞作品
 (縦 100 c m × 横 80 c m 程度) を表示 2023 年 2 月 6 日より稼働
 ラッピング予定車両 5 台 (両側面)
 「令和 4 年度 3 R 促進ポスターコンクール 高学年の部 最優秀賞」



※愛知県北名古屋市防災環境部環境課ご提供

(4) 環境省主催地方セミナー

プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化等への対応がますます重要になっていることから、政府においては、循環型社会形成推進基本計画やプラスチック資源循環戦略等の施策が策定された。

令和 4 年 4 月には「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行され、製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までに関わるあらゆる主体におけるプラスチック資源循環等の取組 (3R + Renewable) を促進するための措置を講じようとしており、また、同 9 月には第四次循環型社会形成

推進基本計画の第2回点検結果（循環経済工程表）が策定された。

こうした状況を踏まえ、国民の皆様はじめ関係者の皆様にこれらの周知徹底を図り、各主体が具体的に行動を起こしていただくための情報を提供するため、環境省主催の3R推進地方セミナーを開催した。

① プラスチック資源循環法 及び循環経済工程表について（富山）

開催日時：2022年11月25日（金） 13：00～16：00

開催拠点：オンライン（WebEx）

開催主体：環境省、富山県、3R活動推進フォーラム

参加者：72名

プログラム：

開会挨拶	13：00 環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 水谷 努 氏
基調講演	13：05「2050年の循環型社会に向けて ～循環経済工程表～」 環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 水谷 努 氏
休憩	14：00
事例発表 1	14：10「プラスチックリサイクルの現状と課題」 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会プラスチック容器事業部課長 清水 健太郎 氏
事例発表 2	14：40「プラスチックの基礎知識とプラスチック資源循環に係る企業動向」 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会専務理事 久保 直紀 氏
事例発表 3	15：10「富山県におけるプラスチック資源循環の取組み」 富山県生活環境文化部参事・環境政策課長 中島 浩薫 氏
閉会挨拶	15：40 3R活動推進フォーラム事務局長

富山県生活環境文化部参事・環境政策課長 中島浩薫

代理発表者： 同課主査 的場義典

② プラスチック資源循環法 及び循環経済工程表について（愛媛）

開催日時：2022年12月14日（水） 13：00～16：00

開催拠点：オンライン（WebEx）

開催主体：環境省、愛媛県、3R活動推進フォーラム

参加者：80名

プログラム：

開会挨拶	13:00 環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室室長補佐 福井 陽一 氏
基調講演	13:05 「2050年の循環型社会に向けて ～循環経済工程表とプラスチック資源循環法～」 環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室室長補佐 福井 陽一 氏
休憩	14:00
事例発表 1	14:10 「プラスチックリサイクルの現状と課題」 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会プラスチック容器事業部課長 清水 健太郎 氏
事例発表 2	14:40 「容器包装ボトル回収からのマテリアルリサイクルの現状と課題」 ヴェオリアジャパン株式会社サーキュラー・エコノミー事業開発本部 宮川 英樹 氏
事例発表 3	15:10 「えひめプラスチック資源循環戦略、食品ロス削減対策について」 愛媛県民環境部環境局循環型社会推進課計画推進グループ担当係長 一色 拓也 氏
閉会挨拶	15:40 3R活動推進フォーラム事務局長

③ プラスチック資源循環法 及び循環経済工程表について（兵庫）

開催日時：2023年1月18日（水）13:00～16:00

開催拠点：オンライン（WebEx）

開催主体：環境省、兵庫県、3R活動推進フォーラム

参加者：119名

プログラム：

開会挨拶	13:00 環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室室長補佐 福井 陽一 氏
基調講演	13:05 「2050年の循環型社会に向けて ～循環経済工程表とプラスチック資源循環法～」 環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室室長補佐 福井 陽一 氏
休憩	14:00
事例発表 1	14:10 「プラスチックリサイクルの現状と課題」 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会プラスチック容器事業部課長 清水 健太郎 氏
事例発表 2	14:40 「兵庫県におけるプラスチック資源循環の取組み」 兵庫県環境部環境整備課長 高原 伸兒 氏
事例発表 3	15:10 「みんなで考えよう。プラスチックの、これから」 神戸市環境局業務課地域環境担当課長 松山 雄一郎 氏
事例発表 4	15:40 「神戸市におけるプラスチック循環のための産官学民連携事例紹介」 アマタホールディングス株式会社共創デザイングループ グループマネージャー 宮原 伸朗 氏
閉会挨拶	16:10 3R活動推進フォーラム事務局長

2. 連携・協働事業

(1) 3R推進団体連絡会との共催による容器包装交流セミナー

プラスチック資源循環法が施行され、プラスチックの一括回収が始まり、3R推進団体連絡会と3R活動推進フォーラムは、3R・循環経済をテーマにNPO団体、事業者、自治体などのステークホルダーが一堂に会し、主体間の信頼と連携・協働の輪が大きく広がることを期待し、全国各地でセミナーを開催した。本年度は2年ぶりに開催した。3回開催終了後に「容器包装セミナー報告書2022」を作成し全国の自治体に配布した。

① 容器包装の3Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会 IN 青森



開催日時：2022年8月25日（木）13：00～16：30

開催拠点：青森県観光物産会館アスパム 十和田

開催主体：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

参加者：36名

プログラム：

プログラム（敬称略）

13:00	開会・主催者挨拶	3R推進団体連絡会 幹事長	川村節也
	■基調講演「プラスチック資源循環法について」		
13:05	環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室	総括室長補佐	江藤文香
	■話題提供		
13:25	話題1	青森県環境生活部環境政策課 総括主幹	上明戸健一
13:40	話題2	青森市環境部清掃管理課廃棄物・リサイクルチーム 主幹	日渡紀之
13:55	話題3	(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント相談員協会	加藤徳子
14:10	話題4	3R推進団体連絡会 幹事	久保直紀
	■グループ討論		
14:40	ワーキング（3つのグループで意見交換します。）		
16:15	グループ報告・全体総括（各グループで報告を行います。）		
16:30	閉会・主催者挨拶	伊藤秀明（3R活動推進フォーラム 事務局長）	

② 容器包装の3Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会 IN 奈良



開催日時：2022年11月10日（木）13：00～16：30

開催拠点：奈良県文化会館 小ホール

開催主体：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

参加者：44名

プログラム：

プログラム（敬称略）	
13:00	開会挨拶 川村節也(3R推進団体連絡会 幹事長)
■基調講演	
13:05	水谷 努(環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室・室長)
■話題提供	
13:25	話題1 岡本雄二(奈良県水循環・森林・景観環境部廃棄物対策課 主査)
13:40	話題2 木戸 勇(生駒市市民部環境保全課 課長補佐)
13:55	話題3 樽井雅美(環境省 環境カウンセラー・3R推進マイスター)
14:10	話題4 久保直紀(3R推進団体連絡会 幹事)
	休憩(14:30～14:40)
■グループ討論	
14:40	ワーキング(3つのグループで意見交換します。)
16:15	グループ報告・全体総括(各グループで報告を行います。)
16:30	閉会挨拶 伊藤秀明(3R活動推進フォーラム 事務局長)

③ 容器包装の3Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会 IN 鹿児島



開催日時：2023年2月2日（木）13：00～16：40

開催拠点：ライカ南国ホール（Li-Ka1920（ライカイチキューニーマル）5階）

開催主体：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

参加者：42名

プログラム：

プログラム（敬称略）	
13:00	開会・主催者挨拶 川村節也（3R推進団体連絡会 幹事長）
■	基調講演1 「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動について」
13:05	井上雄祐（環境省地球環境局脱炭素ライフスタイル推進室 室長）
■	基調講演2 「プラスチック資源循環法と循環経済工程表について」
13:25	水谷 努（環境省環境再生資源循環局総務課リサイクル推進室 室長）
■	話題提供
13:45	話題1 鶴田晃紀（鹿児島県環境林務部廃棄物・リサイクル対策課 課長）
14:00	話題2 山中直樹（鹿児島市環境局資源循環部資源政策課 主幹）
14:15	話題3 鬼沢良子（環境省 環境カウンセラー NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長）
14:30	話題4 久保直紀（3R推進団体連絡会 幹事） 休憩（14:45～14:55）
■	グループ討論
14:55	ワーキング（3つのグループで意見交換します。）
16:25	グループ報告・全体総括（各グループで報告を行います。）
16:40	閉会・主催者挨拶 伊藤秀明（3R活動推進フォーラム 事務局長）

（2） 持続可能環境センターとの連携

環境が将来にわたって持続するよう、家庭・企業・コミュニティ等において必要な知見を共有するとともに、活動の輪を広げるための教育・人材の育成等を支援することにより、持続可能な地域社会づくりに貢献する目的で加入している。

① 持続可能環境センター（3R・低炭素社会検定）総会・運営委員会

開催日時：2022年6月28日（火）10：00～11：30

開催拠点：京都大学工学部・浅利美鈴准教授セミナー室

（工学部物理系校舎8階807号室）およびオンライン（ZOOM）併用

開催主体：一般社団法人持続可能環境センター事務局

内容：2021年度決算、第15回検定について

② 持続可能環境センター運営委員会

開催日時：2022年9月28日（水）16：00～17：30

開催拠点：京都大学工学部・物理系校舎8階三才学林セミナー室

およびオンライン（ZOOM）併用

開催主体：一般社団法人持続可能環境センター事務局

内容：第15回検定の進捗について 次年度の検定について 他

③ 第15回 3R・低炭素社会検定試験講習開催 運營業務（関東地区：東京会場）

開催日時：2022年10月15日（土）

3Rコース 9：30～12：30

低炭素社会コース 13：30～16：30

開催拠点：東京会場

（公財）廃棄物・3R研究財団 会議室

開催主体：3R・低炭素社会検定 検定事務センター



④ 第15回 3R・低炭素社会検定試験開催 運營業務（関東地区：東京会場）

開催日時：2022年11月13日（日）

開催拠点：品川フロントビル会議室 定員145名

開催主体：3R・低炭素社会検定 検定事務センター

受験者：午前69名 午後68名



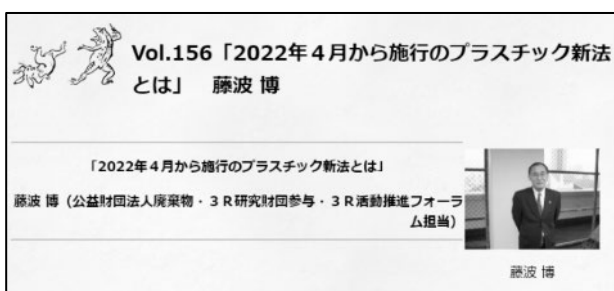
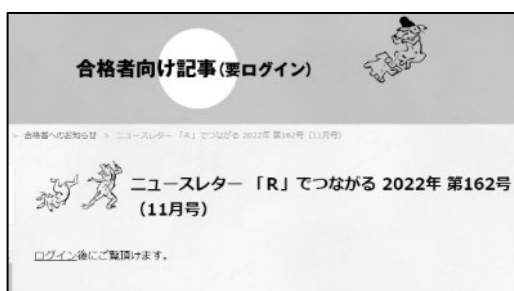
⑤ 広報関連

- ・合格者向けの記事

「ニュースレターRでつながる」3R・低炭素社会検定 ニュースレター編集委員会

- ・HP記事の寄稿

Vol.156「2022年4月から施行のプラスチック新法とは」



(3) 公益財団法人日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局との連携

時代を担う子どもたちのコミュニケーションの能力、課題発見、解決能力、多様性を受容できる力、新しい価値を生み出す力など「未来を創る力」を育む活動を支援することにより、持続可能な地域社会づくりに貢献する目的で加入している。

- ① バイオマスプラスチック「アキと世界の未来(2022年3月30日発行(非売品))」
漫画の掲載協力
(3R活動推進フォーラム会員、一般社団法人有機資源協会様よりご提供)
- ② 令和4年度3R促進ポスターコンクール募集の掲載協力



③ 2022年11月22日開催 YOKOHAMA RePLASTIC

フォーラム会場での共同展示を実施。

横浜市資源循環局と同じスペースで展示を行い、相互理解を深めた。



(4) リデュース・リユース・リサイクル推進協議会との連携

① 第1回（令和4年度）3R・循環経済先進事例研究発表会（3R+Renewable）

世界的な人口増加や経済成長などにより資源・エネルギー・食料の需要が拡大し、同時に廃棄物量の増大、気候変動、生物多様性、環境汚染などの問題が深刻化している。

このため、資源および製品の長期・効率的な利用等を通じた Reduce、繰り返し利用等を通じた Reuse、資源の徹底的利用等による Recycle、そして、利用する資源自体を再生可能なものに変える Renewable を全ての製品分野にわたって推進していくことが必要となっており、資源採取、製品設計、製造、供給、利用、維持修繕、回収、リサイクル・資源化のすべての段階にわたって、関係者の相互の理解と協力が不可欠である。

そこで、持続可能な形態で新たな試みや取り組みの先駆的な事例を中心に、企業、自治体廃棄物・リサイクル関連団体等の事例・研究発表会を開催し、3R・循環経済に関する先進事例の情報発信および相互の交流の場を作り、循環型社会の一層の拡大浸透を図る。

第1回となる令和4年度は、製品設計から廃棄物処理に至る各段階において、あらゆる主体による資源循環等の取組（3R+Renewable）の第1弾としてプラスチック資源循環促進法（プラ新法）が本年4月に施行されたことを踏まえ、プラスチックの3R・循環経済をテーマとした先進事例発表会を開催した。



開催日時：2022年12月12日（月）13：00～16：30

開催拠点：オンライン（WebEx）

開催主体：リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

3R活動推進フォーラム

クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）協力

発表者はHPより公募した。

参加者：80名

プログラム：敬称略

【プログラム】

■開会 13:00 (12:45～参加者入室可能)

■来賓挨拶 13:00～13:20

環境省 環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 水谷 努
経済産業省 産業技術環境局資源循環経済課長 田中 将吾

■基調講演 13:20～13:50

「循環型社会を支える循環経済」

東海大学副学長・3R活動推進フォーラム会長

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長 細田 衛士

■先進的事業・取組事例発表、ディスカッション 13:50～16:30

ファシリテーター

特定非営利活動法人ごみじゃぱん理事、京都経済短期大学教授、

学校法人明德学園副理事長 小島 理沙

■閉会 16:30 (予定) 事前質問の数により17:00までの可能性あり

～先進的事業・取組事例発表～

各発表25分、質疑応答5分 順番は変更する可能性があります。

◆神戸市環境局業務課

地域環境担当課長 松山 雄一郎

「神戸プラスチックネクスト～みんなでつなげよう。つめかえパックリサイクル～」

◆一般社団法人全国清涼飲料連合会

自販機部部長 石黒 隆

「事業系飲料容器回収における課題と対応の最新動向」

◆東京都 環境局資源循環推進部

専門課長 古澤 康夫

「脱炭素のプラスチック循環利用とリユースビジネス主流化を目指す東京都の取組」

◆株式会社 digglue (ディグル)

代表取締役CEO 原 英之

「マテリアルリサイクルを推進するデジタルプラットフォームの構築に向けて」

◆BLUE Plastics プロジェクト

旭化成株式会社 デジタル共創本部 資源循環プロジェクト長 井出 陽一郎

「プラスチック資源循環デジタルプラットフォーム開発プロジェクト：BLUE Plastics」



② 循環・3Rリレーセミナー

～脱炭素社会における資源循環（3R+Renewable）～

開催日時：2023年2月6日（月）14:00～16:45

開催拠点：オンライン（WebEx）

開催主体：

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会 3R活動推進フォーラム

参加者：119名



プログラム：

プログラム（敬称略）	
14:00 開会挨拶	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長/3R活動推進フォーラム会長 細田 衛士（東海大学副学長、政治経済学部経済学科教授・慶應義塾大学名誉教授）
14:05 基調講演	脱炭素社会における資源循環（3R+Renewable） 細田 衛士（東海大学副学長、政治経済学部経済学科教授・慶應義塾大学名誉教授）
14:35 話題提供	（仮題）経済産業省の最新施策 田中 将吾（経済産業省産業技術環境局資源循環経済課長）
15:05 話題提供	（仮題）農林水産省における資源循環の取組 森 幸子（農林水産省新事業・食品産業部食品ロス・リサイクル対策室長）
15:35 休憩（10分間）	
15:45 話題提供	資源循環分野におけるカーボンニュートラル ～循環経済工程表とプラスチック資源循環法～ 水谷 努（環境省環境再生・資源循環局循環型社会推進室長、リサイクル推進室長）
16:15 トピックス	（仮題）サーキュラーエコノミーを脱炭素化につなげるための必須条件 村上 進亮（東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻、システム創成学専攻教授）

（5） 廃棄物・3R研究財団&3R活動推進フォーラム年次報告会

令和4年度の廃棄物・3R研究財団及び3R活動推進フォーラム主催の年次報告会にて、3R活動推進フォーラムの活動報告と今後の方向性について報告をした。

開催日時：2022年10月14日（金）

開催拠点：KFCビル（第一ホテル両国直結10階 Room101～103）

開催主体：公益財団法人廃棄物・3R研究財団

参加者：会場参加53名 オンライン参加69名 計122名

（6） とやま環境フェア2022 WEB出展

富山環境フェアは、富山県をはじめ様々な環境関係団体が環境保全や3Rの推進についての展示なわかりやすくアピールしている。特に、食品廃棄物・フードロスの取組は富山県が全国をけん引しており、大きな成果を上げている。

当フォーラムでも毎年このフェアを応援しており、これからも共に環境保全を取り組んでいくために本年度も出展を行った。

開催日時：ウェブ会場：令和4年10月7日（金）～令和5年1月9日（月・祝）

リアル会場：令和4年10月9日（日）、10月10日（月・祝） 9：30～15：30

開催拠点：WEB

開催主体：とやま環境フェア開催委員会（富山県、富山市、環境とやま県民会議、
（公財）とやま環境財団）

(7) スチール缶リサイクル協会との連携

① 三浦海岸清掃活動

2022年度第1回目の「散乱防止・美化キャンペーン」
として三浦海岸で海岸清掃を行った。昨年度は開催を
見送ったため、約1年ぶりの開催となった。

開催日時：2022年4月28日（木）

開催拠点：神奈川県三浦市三浦海岸

※スチール缶リサイクル協会よりご提供



② 愛媛県西条市高須海岸清掃活動

地元の住民や企業、関係団体など約400名と一緒に海岸の
清掃活動を行いました。清掃活動終了後は、市内のショッピ
ングセンター「フジグラン西条」に移動し、場所をお借りし
てポイ捨て防止、環境美化推進の啓発活動を実施した。

開催日時：2022年7月3日（日）

開催拠点：愛媛県西条市高須海岸



③ 三重県津市リバーパーク真美清掃活動

地元団体主催の清掃活動に、3R活動推進フォーラムはス
チール缶リサイクル協会とともに参加しました。清掃活動終
了後は、参加者約200名にポイ捨て防止、環境美化推進の啓
発活動を実施した。

開催日時：2022年11月19日（土）

開催拠点：三重県津市白山町真美



(8) 資源リサイクル促進センターとの連携

- ① 小学生のためのリサイクル学習ホームページ3Rポスターコンクール開催の掲載にご協力をい
ただいた。

(<https://cjc.or.jp/j-school/>)



- ② 中学生・高校生・市民のための環境リサイクル学習ホームページ「プラスチック製品の原料は？」
日本有機資源協会マンガの掲載にご協力をいただいた。
(<https://www.cjc.or.jp/school/a/a-4-2.html#sec02-2>)



3. 実務講座・相談事業

(1) 自治体・事業者との勉強会、研修

市町村に資源循環に関する情報提供、意見交換を通じて、自治体相互の交流を図り、広域事業等の新たな展開に役立てると共に、資源循環研究の一層の推進を図ることを目的に「プラスチック資源循環法研修会」を開催した。

「プラスチック資源循環の法制度を解説する」と題し、一括回収での様々な個別の問題を束ねて、多面的・総合的に資源循環問題の理解と解決に向けて法制度を理解するため、自治体との意見交換会を実施した。

① 青森県・青森市等の地元関係者との意見交換会

開催日時：2022年8月24日（水）施設見学 13:00～15:00 意見交換 15:40～17:20

開催拠点：株式会社青南商事 ECO プラザ青森/青森県観光物産会館アスパム9F 「南部」

開催主体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、3R活動推進フォーラム、青森県公益財団法人廃棄物・3R研究財団

参加者：施設見学会 12名 意見交換会 10名



プログラム：敬称略

講演 経済産業省資源循環経済課 課長補佐（総括担当） 吉川泰弘
意見交換、質疑等

② 市町村 プラスチック資源循環 研修会（奈良県）

開催日時：2022年11月11日（金）13:00～15:45

開催拠点：奈良県経済倶楽部4階会議室/オンライン（WebEx）

開催主体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、3R活動推進フォーラム、奈良県、公益財団法人廃棄物・3R研究財団

参加者：26名（現地参加者13名）

プログラム：敬称略

開会挨拶

奈良県水循環・森林・景観環境部廃棄物対策課 課長 高木康人

講話 「今後の循環経済と脱炭素の方向は」

公益財団法人廃棄物・3R研究財団 理事長 梶原成元

講義1 「プラスチック資源循環法の概要」

経済産業相産業界技術環境局資源循環経済課 総括課長補佐 吉川康弘

講義2 「プラスチックリサイクルの現状と課題」

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会プラスチック容器事業部課長清水健太郎

講義3 「プラスチック資源循環の動向」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀

意見交換会「プラスチック資源循環法の施工に向けた市町村の一括回収等について」

閉会挨拶 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀



③ 市町村 プラスチック資源循環 研修会（鹿児島県）

開催日時：2023年2月3日（金）13:00～15:15

開催拠点：ライカ南国会議室/オンライン（WebEx）

開催主体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、3R活動推進フォーラム、鹿児島県

公益財団法人廃棄物・3R研究財団廃棄物・3R研究財団

参加者：41名（現地参加6名）

プログラム：敬称略

開会挨拶 公益財団法人廃棄物・3R研究財団 理事長 梶原成元

講話 「脱炭素と新しい豊かな暮らしを創る国民運動」

環境省地球環境局 脱炭素ライフスタイル推進室長 井上雄祐

講義1 「プラスチック資源循環法の概要」

経済産業省産業界技術環境局資源循環経済課 総括課長補佐 吉川泰弘

講義2 「容リ制度とプラスチックリサイクルの現況と課題」

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会プラスチック容器事業部

課長 清水健太郎

講義3 「プラスチック資源循環 環境配慮設計とリサイクル」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀

質疑応答（意見交換会）

閉会挨拶

鹿児島県環境林務部廃棄物・リサイクル対策課 課長 鶴田晃紀

※開催当日は経済産業省産業技術環境局資源循環経済課 総括課長補佐吉川泰弘氏が公務のため欠席、代わりに環境省地球環境局 脱炭素ライフスタイル推進室長井上雄祐氏より「プラスチック資源循環法の概要」のご説明をいただいた。



(2) 講師派遣

① 一般社団法人えひめ産業資源循環協会主催

「3Rシステム事業化促進支援事業成果発表会」

開催日時：2022年11月8日（月）13:30～16:00

開催拠点：リジェール松山（JA愛媛）8階クリスタルホール（松山市南堀端町2-3）

開催主体：一般社団法人えひめ産業資源循環協会

基調講演

「循環型社会の形成を目指して ～プラスチック新法の意義と産廃業者の役割～」

3R活動推進フォーラム事務局長 伊藤秀明

② 公益社団法人神奈川県産業資源循環協会主催

「令和4年度横浜地区セミナー」

開催日時：2022年12月5日（月）13:30～16:30

開催拠点：かながわ労働プラザ 4階5、6、7会議室

開催主体：公益社団法人神奈川県産業資源循環協会

研修講話 地球温暖化防止対策と循環型社会の形成に向けて

《産業廃棄物処理業者の担う役割》

3R活動推進フォーラム事務局長（元横浜市職員）伊藤秀明

4. 広報普及事業

(1) HP やメルマガを通じた普及啓発活動

① 3R活動フォーラム「3Rとは」ページの改修

関連情報のリンク先の確認と整理を行った。またカテゴリーを「3R・資源循環」「プラスチック資源循環、海洋プラスチックごみ」「食品ロス」「衣服・ファッション」「蓄電池・バッテリー」に増やした。

② ホーム画面のバナーの更新を積極的に実施

参加者を募集するイベントなど、視覚で惹きつけるような工夫の一つとして行った。以下に本年度の一例を掲載する。

- ・ 3R 促進ポスターコンクール作品募集時 期間：募集開始～9月締め切りまで



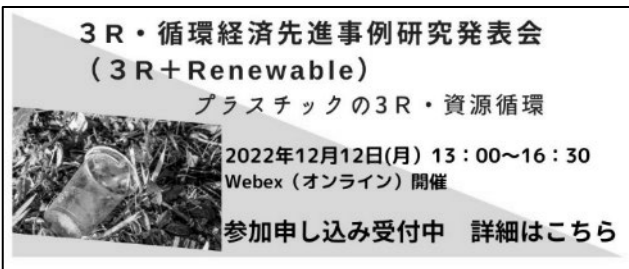
- ・ 3R 推進全国大会の共同主催自治体の募集 期間：通年



- ・ 3R 推進全国大会参加者の募集時 期間：募集開始～終了まで



- ・ 3R・循環経済先進事例研究発表会（3R+Renewable）期間：募集開始～終了まで



③ HP アクセス数（PV 数）の調査

調査の結果、近年は WEB へのアクセスが減少傾向のため、来訪を増やす仕掛けの検討として、さらなる他団体との連携や SNS を通じた広報も検討する。

年度	合計	月平均
2022 年度	119,084	10,826
2021 年度	147,034	12,253
2020 年度	104,404	8,700
2019 年度	153,989	12,832
2018 年度	179,520	14,960

④ 3 R・廃棄物 NEWS 配信（メルマガ）

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月 2～3 回配信した。

（配信登録者約 6600 件（2023 年 3 月時点））

配信した直後、イベントの申込数が増加傾向となるので、今後も積極的に配信していく。

⑤ 3 R 推進月間用ポスター（令和 3 年度版、4 年度版）を通じた 3 R 啓発

環境省と実施している令和 3 年度と令和 4 年度の 3 R 促進ポスターコンクールの入賞作品を使った 3 R 推進月間用ポスターデータを作成し、利用できるよう WEB 上で呼びかけを行った。



📎ポスター(1)(PDF:0.4MB)



📎ポスター(2)(PDF:0.3MB)

⑥ 令和 4 年度 3 R 推進全国大会で展示した 16 作品のパネルの無償貸し出しを HP 上で開始（2022 年 12 月 23 日～より開始）

(2) 会員向けサービス

① 事務局通信の配信

事業の企画や業務執行の状況等会員に随時報告するための事務局通信を年4回配信した。
3R活動推進フォーラムの活動報告だけでなく、会員情報等も掲載するように内容を改めた。

年度	発行回数
2022年度	4
2021年度	3
2020年度	2
2021年度	4
2018年度	1

② 動画配信の開始

当フォーラムの企画・運営委員会での梶原成元副会長の講話、3R推進全国大会での細田衛士会長の基調講演を会員向けサイトからYouTube動画で配信を開始した。

3Rを取り巻く最近の内外の動向
登壇者：3R活動推進フォーラム副会長 梶原成元
2022年3月16日開催 3R活動推進フォーラム企画・運営委員会

- 気候変動対策の内外の動き
- 資源節約と循環経済の内外の動き
- 我が国における動き
 - (1)気候変動対策
 - (2)循環型社会形成推進基本計画の見直し等
 - (3)プラスチック資源循環法
 - (4)廃棄物分野のカーボンニュートラル化

3R・循環経済をめぐる最新の動き—循環経済工程表(案)ほか—
登壇者：3R活動推進フォーラム副会長 梶原成元
2022年7月29日開催 3R活動推進フォーラム企画・運営委員会

今年6月末に循環経済工程表(案)がパブリックコメントに当たり、EUでは循環経済の動きが進んでいます。また、今年の11月にはプラスチック条約の交渉の会議が始まります。このように3Rを取巻く状況が激変している中、3R活動推進フォーラムは、どのような活動をしていくべきかを検討すべく、3R・循環経済をめぐる最新の動きの情報を共有いたしました。

(3) 3R促進ポスターコンクール展示会(令和4年度入賞作品)を通じた3R推進普及活動

以下の場所で最優秀作品、優秀作品全16点の展示を行った。

① 東京ウイメンズプラザ(第16回全国3R推進全国大会会場内)

開催日時：2022年10月27日(木)

来訪者：約50名

② 地球環境パートナーシッププラザ(国連大学1階)

開催日時：2022年10月28日(金)～11月16日(水)



③ 横浜市役所（YOKOHAMA RePLASTIC フォーラム会場内）

開催日時：2022年11月22日（火）

来訪者：約180名

（4） 後援、協賛、協力等

① 建設副産物リサイクル広報推進会

- ・令和4年度建築副産物リサイクル広報用ポスター

掲出期間：2022年10月中心

掲出場所：公共交通機関の駅舎、公共機関、建設現場等

- ・2022建設リサイクル技術発表会・技術展示会

開催日時：2022年11月9日～10日

開催拠点：インデックス大阪6号館（大阪市住之江区南港北 1-5-102）

② 3R推進団体連絡会

- ・第17回容器包装3R推進フォーラム

開催日時：2023年1月23日（月）

開催拠点：KFCホール（墨田区横綱 1-6-1）

③ スチール缶リサイクル協会

- ・第16回（2022年）小・中学校における環境教育推進支援事業

募集期間；2022年6月1日～10月31日

④ 令和3年度不法投棄の監視・啓発活動等の取組実績の報告

提出先 環境相環境再生・資源循環局不法投棄現状回復事業対策室

提出内容 3R活動推進フォーラム令和3年度不法投棄の監視・啓発活動等の取組実績

掲載内容 2023年1月23日環境省報道発表

「産業廃棄物の不法投棄等の状況（令和3年度）」

https://www.env.go.jp/press/press_01043.html

「産業廃棄物の不法投棄等の監視体制の状況について（令和4年度）」

https://www.env.go.jp/recycle/ill_dum/kanshi_kyoka.html

⑤ プラスチック容器包装リサイクル推進協議会主体事業への参画

東京都令和3年度 革新的技術・ビジネスモデル推進プロジェクト

「分別収集したプラスチック資源の機械選別・リサイクルに関する実証検討」

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/resource/recycle/single_use_plastics/circular_innovation.html

(5) Rマーク表示の啓発普及

3R活動推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成7年6月に定めた再生紙普及のためのRマーク（再生紙使用マーク）について、環境省が策定した環境表示ガイドラインの表示方法等と併せて広報に努めた。

① ホームページでの普及啓発

Rマークのロゴをダウンロードできるようにするとともに、使用にあたっての留意事項等を掲載。

② 問い合わせへの対応

Rマークについて、掲載方法や掲載物に関する電話などでの問い合わせ、教材への掲載方法についての問い合わせなどに対応した。3R活動推進フォーラム全体の問合せの3分の1を占めていることから、関心が高いことがわかった。

《Rマーク表示例》

平成20年1月に環境省から公表された「環境表示ガイドライン」では、消費者を混乱させないため、Rマークの近辺やウェブサイトなどに、下記表示例のように利用方法について説明文を加えて表示することが望ましいとされている。



この製品は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。☺

③ 報告相談の利用例について（以下一例）

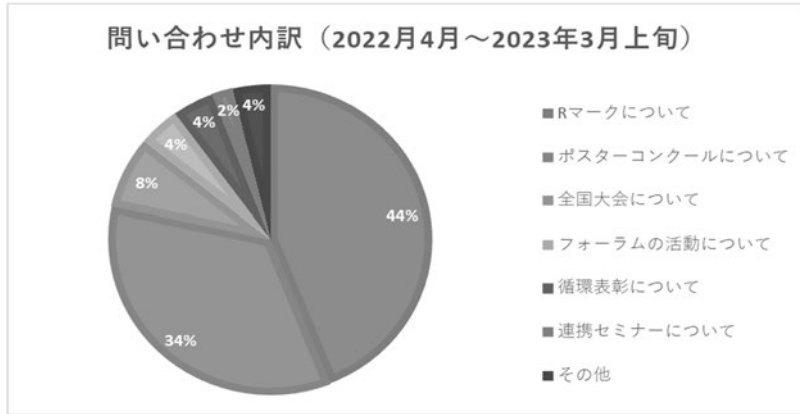
- ・【文科省・R5 著作教科書】家庭科教科「消費生活」掲載図表データの使用
- ・『Oh!金の学校』（フレーベル館）「再生紙使用マーク」使用
- ・【文部科学省著作教科書】「消費者生活」への画像等掲載
- ・地球教室2022年（基礎編）の「環境に配慮した商品」への掲載等



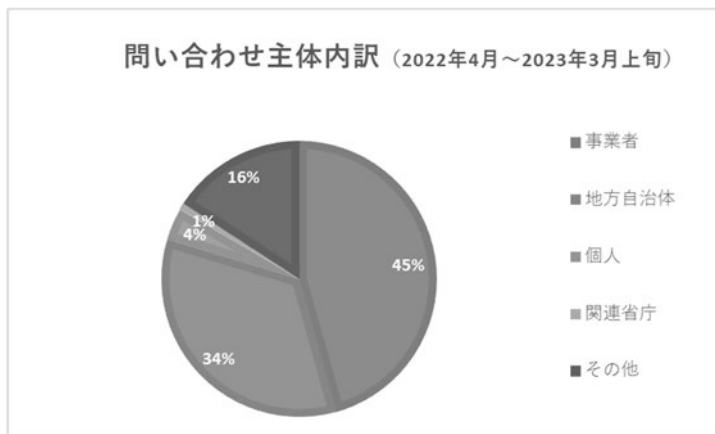
(6) その他相談業務

3R活動推進フォーラムへは様々な主体から各種問い合わせがあり、その内訳は以下の通り。
(2023年3月上旬集計)

・問い合わせ内容



・問い合わせ主体内訳



その他：学校 保護者等

(7) メディア掲載

3R活動推進フォーラム事業がメディアに掲載された記事等の一覧

掲載日	掲載媒体	掲載内容	備考
2022年10月	ウェイストマネジメント 環境産業新聞	環境省・3R活動推進フォーラム第16回3R推進全国大会を開催へ	第16回3R推進全国大会
2022年10月	環境新聞	第16回3R推進全国大会広告	第16回3R推進全国大会

2022年10月	一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センター HP	【第16回3R推進全国大会 !!参加者募集!!】	第16回3R推進全国大会
2022年12月	月間廃棄物(12月号)	資源循環と脱炭素を推進へライフサイクル全体で取り組む	第16回3R推進全国大会
2022年12月	都市と廃棄物 (VOL.52 No.12)	環境省・3R活動推進フォーラム第16回3R推進全国大会開く 循環経済の強いうねりを	第16回3R推進全国大会

II 組織運営

1. 理事会・総会

(1) 理事会 開催概要

3R活動推進フォーラム 第17回理事会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止をする観点から、前年度と同様、書面による決議を行い、理事及び監事の皆様に審議を賜り2022年5月30日に理事会の決議をもって原案を可決した。

【議事】

① 報告事項 職務の執行状況に関する報告

② 審議事項

第1号議案 令和3年度事業報告(案)及び収支決算(案)

第2号議案 令和4年度事業計画(案)及び収支予算(案)

第3号議案 理事及び監事の選任(案)

第4号議案 顧問の承認(案)

第5号議案 会長、副会長、専任理事の選任(案)

第6号議案 第17回総会を書面により開催する提案(案)

<役員>

3R活動推進フォーラム 役員一覧(令和5年3月末日時点)敬称略

会 長	細田 衛士	東海大学副学長政治経済学部経済学科教授、慶應義塾大学名誉顧問
副 会 長	崎田 裕子	NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 顧問
副 会 長	梶原 成元	公益財団法人廃棄物・3R研究財団理事長

(理事 五十音順)

専任理事	宇仁菅伸介	公益財団法人廃棄物・3R研究財団専務理事
理事	荒川 隆	一般財団法人食品産業センター理事長
理事	伊藤 章	一般財団法人家電製品協会理事長
理事	大迫 政浩	一般社団法人廃棄物資源循環学会会長
理事	岡村 隆吉	一般社団法人日本経済団体連合会環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部会長代行
理事	金澤 貞幸	公益社団法人全国都市清掃会議会長
理事	佐藤 直良	建設副産物リサイクル広報推進会議会長
理事	山条 忠文	一般社団法人日本環境保全協会会長
理事	永井 良一	公益社団法人全国産業資源循環連合会会長
理事	藤村コノエ	NPO 法人環境文明21代表理事
理事	松尾 嘉朗	一般社団法人全国清涼飲料連合会会長
理事	三井 弘樹	一般社団法人全国清掃事業連合会会長

(監事 五十音順)

監事	大熊 洋二	公益社団法人全国都市清掃会議専務理事
監事	中田 良平	スチール缶リサイクル協会専務理事

(顧問 五十音順)

顧問	加藤 三郎	株式会社環境文明研究所代表取締役所長
顧問	庄子 幹雄	マサチューセッツ工科大学客員教授

(2) 総会 開催概要

「3R活動推進フォーラム 第17回総会」の開催について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、前年度と同様、書面による決議を行うことに第17回理事会で決定し、各会員の審議を賜り、2022年6月16日に総会決議が行われた。

【議事】

- ① 報告事項 職務の執行状況に関する報告
- ② 審議事項
 - 第1号議案 令和3年度事業報告(案)及び収支決算(案)
 - 第2号議案 令和4年度事業計画(案)及び収支予算(案)
 - 第3号議案 理事及び監事の選任(案)
 - 第4号議案 会長、副会長、専任理事の選任(案)

会員(令和5年3月末日時点) 自治体会員77 民間団体会員66 計143

自治体会員	
▶ 北海道環境生活部環境局循環型社会推進課	▶ 青森県
▶ 岩手県	▶ 宮城県環境生活部循環型社会推進課
▶ 秋田県生活環境部環境整備課	▶ 山形県
▶ 福島県生活環境部一般廃棄物課	▶ 茨城県生活環境部廃棄物対策課
▶ 栃木県	▶ 群馬県環境森林部廃棄物・リサイクル課
▶ 埼玉県	▶ 千葉県
▶ 東京都環境局	▶ かながわ3R推進会議(神奈川県)
▶ 新潟県	▶ 富山県
▶ 石川県環境部廃棄物対策課	▶ 福井県安全環境部循環社会推進課
▶ 山梨県	▶ 長野県環境部資源循環推進課
▶ 岐阜県	▶ 静岡県
▶ ごみゼロ社会推進あいち県民会義(愛知県)	▶ 三重県
▶ 滋賀県	▶ 京都府文化環境部循環型社会推進課
▶ 大阪府環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課	▶ 兵庫県
▶ 奈良県廃棄物対策課	▶ 和歌山県環境生活部循環型社会推進課
▶ 鳥取県	▶ 島根県
▶ 岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議	▶ 広島県環境県民局循環型社会課
▶ 山口県環境生活部廃棄物・リサイクル対策課	▶ 徳島県
▶ 香川県	▶ 愛媛県
▶ 高知県林業振興・環境部環境対策課	▶ 福岡県環境部循環型社会推進課
▶ 佐賀県くらし環境本部循環型社会推進課	▶ 長崎県
▶ 熊本県環境生活部廃棄物対策課	▶ 大分県
▶ 宮崎県環境森林部循環社会推進課	▶ 鹿児島県
▶ 沖縄県	▶ さいたま市環境局資源循環推進部資源循環政策課
▶ 横浜市	▶ 川崎市
▶ 相模原市	▶ 新潟市環境部循環社会推進課
▶ 大阪市環境局事業部家庭ごみ減量課	▶ 神戸市環境局資源循環部減量リサイクル推進課
▶ 北九州市環境局循環社会推進部循環社会推進課	▶ 熊本市環境局資源循環部ごみ減量推進課
▶ 新宿区環境清掃部ごみ減量リサイクル課	▶ 文京区資源環境部リサイクル清掃課
▶ 墨田区	▶ 目黒区環境清掃部清掃リサイクル課
▶ 渋谷区環境政策部清掃リサイクル課	▶ 豊島区環境清掃部ごみ減量推進課
▶ 荒川区	▶ 練馬区
▶ 足立区	▶ 葛飾区環境部リサイクル清掃課
▶ 岩見沢市	▶ 川口市
▶ 船橋市資源循環課	▶ 昭島市環境部ごみ対策課
▶ 東大和市	▶ 大井町
▶ 松本市	▶ 豊田市ごみ減量推進課
▶ 東海市清掃センター	▶ 佐賀市環境部循環型社会推進課
▶ 指宿市市民生活部環境政策課	

民間団体会員（50音順）	
▶ (公財)あしたの日本を創る協会	▶ アルミ缶リサイクル協会
▶ 大阪湾広域臨海環境整備センター	▶ (一財)家電製品協会
▶ 紙製容器包装リサイクル推進協議会	▶ ガラスびん3R促進協議会
▶ (一社)環境衛生施設維持管理業協会	▶ (NPO)環境技術支援ネットワーク
▶ (一財)環境事業協会	▶ (公社)環境生活文化機構
▶ (NPO)環境文明21	▶ (一社)京都府産業廃棄物3R支援センター
▶ (NPO)グリーンコンシューマー東京ネット	▶ 建設廃棄物協同組合
▶ 建設副産物リサイクル広報推進会議	▶ 国立研究開発法人国立環境研究所
▶ ごみ減量ネットワーク	▶ (NPO)最終処分場技術システム研究協会(LSA)
▶ (公財)産業廃棄物処理事業振興財団	▶ (一社)持続可能社会推進コンサルタント協会
▶ (NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット	▶ (一財)食品産業センター
▶ (公社)食品容器環境美化協会	▶ スチール缶リサイクル協会
▶ 石油連盟	▶ 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
▶ 全国環境整備事業協同組合連合会	▶ 全国牛乳容器環境協議会
▶ (公社)全国産業資源循環連合会	▶ (一社)全国浄化槽団体連合会
▶ 全国生活学校連絡協議会	▶ (一社)全国清掃事業連合会
▶ (一社)全国清涼飲料連合会	▶ 全国地域婦人団体連絡協議会
▶ (公社)全国都市清掃会議	▶ (公財)全国老人クラブ連合会
▶ 電気事業連合会	▶ 中間貯蔵・環境安全事業(株)
▶ (一社)日本環境衛生施設工業会	▶ (一財)日本環境衛生センター
▶ (公財)日本環境協会	▶ (公財)日本環境整備教育センター
▶ (一社)日本環境保全協会	▶ 日本化粧品工業連合会
▶ JMIA日本鋳業協会	▶ 日本再生資源事業協同組合連合会
▶ (公財)日本産業廃棄物処理振興センター	▶ (一社)日本自動車工業会
▶ (一財)日本消費者協会	▶ (公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
▶ 日本生活協同組合連合会	▶ (一社)日本即席食品工業協会
▶ (一社)日本鉄鋼連盟	▶ (一社)日本パン工業会
▶ (公社)日本PTA全国協議会	▶ (一社)日本百貨店協会
▶ (NPO)日本ファイバーリサイクル推進協会	▶ (一社)日本有機資源協会
▶ (一社)廃棄物資源循環学会	▶ (公財)廃棄物・3R研究財団
▶ (一社)パソコン3R推進協会	▶ びん再使用ネットワーク
▶ (一社)プラスチック循環利用協会	▶ プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
▶ PETボトルリサイクル推進協議会	▶ (一財)水と緑の惑星保全機構

2. 企画・運営委員会

(1) 令和4年度第1回開催概要

令和4年度企画・運営委員会（第1回）をWebexによるオンライン形式にて開催し、3R活動推進フォーラムの役割の強化・拡充について意見交換を行った。

開催日時： 令和4年7月29日（金）10：00～12：00

開催場所： オンライン開催（Webex）

開催内容：

- ① 開会 伊藤事務局長
- ② 挨拶 3R活動推進フォーラム副会長 梶原 成元
環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 水谷 努氏
- ③ 委員・オブザーバー紹介
- ④ 議事 鬼沢委員長
 1. 令和3年度企画・運営委員会議事録確認
 2. 3R・循環経済をめぐる最新の動きー循環経済工程表（案）ほかー
 3. 3R活動推進フォーラムの役割の強化・拡充について
 4. 今後の企画・運営委員会の開催予定
 5. その他
- ⑤ 閉会 伊藤事務局長

(2) 令和4年度第2回開催概要

令和4年度企画・運営委員会（第2回）をWebexによるオンライン形式にて開催し、当年度の事業報告と次年度の事業計画を報告した。また、2月に会員向けのアンケートを実施し、今後のフォーラムの活動についての意向調査の結果を報告し、これからの活動の方向性について意見交換会を行った。

開催日時： 令和5年3月2日（木）10：00～11：30

開催場所： オンライン開催（Webex）

開催内容：

- ① 開会 伊藤事務局長
- ② 挨拶 3R活動推進フォーラム副会長 梶原 成元
環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 水谷 努氏
- ③ 委員・オブザーバー紹介
- ④ 議事 鬼沢委員長
 1. 令和4年度事業報告（案）について
 2. 今後の事業の進め方（案）について

3. 令和5年度事業計画（案）について
 4. その他
- ⑤ 閉会 宇仁菅専任理事

<委員>

3R活動推進フォーラム 委員一覧(令和5年3月末日時点) 敬称略 50音順

浅利 美鈴	京都大学大学院地球環境学堂准教授
有馬 聡	一般財団法人家電製品協会環境部長
香川 智紀	公益社団法人全国産業資源循環連合会事業部長兼調査部長
鬼沢 良子	NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
久保 直紀	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会専務理事
小松 順司	大阪市環境局家庭ごみ減量課長
佐藤 勇一	川口市環境部資源循環課長
志村 公久	東京都環境局資源循環推進部長
田中 希幸	ガラスびん3R促進協議会理事・事務局長
中石 一弘	株式会社エックス都市研究所常務取締役・環境エンジニアリング事業本部長
中田 良平	スチール缶リサイクル協会専務理事
羽田野雅司	松本市環境・地域エネルギー部長
藤森 祥弘	建設副産物リサイクル広報推進会議幹事長
三浦 佳子	一般社団法人日本冷凍食品協会広報部長（消費生活コンサルタント）
百瀬 紋乃	日本生活協同組合連合会社会・地域活動推進部
山本 耕平	株式会社ダイナックス都市研究所
山脇 敦	公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 再生品認証事業推進チーム チームリーダー
柚山 義人	一般社団法人日本有機資源協会専務理事

<関係省庁>

水谷 努	環境省環境再生・資源循環局総務課 リサイクル推進室長・循環型社会推進室長
小花 和稔	環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室室長補佐
加藤 正良	環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室
田中 将吾	経済産業省産業技術環境局資源循環経済課長
森 幸子	農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室長
隅藏雄一郎	国土交通省総合政策局 公共事業企画調整課インフラ情報・環境企画調整官

<オブザーバー>

小峰 且也	株式会社環境新聞社専務取締役
新倉 充	日報ビジネス株式会社環境編集部課長
松澤 淳	株式会社環境産業新聞社代表取締役

<事務局>

梶原 成元	3 R活動推進フォーラム副会長
宇仁菅伸介	3 R活動推進フォーラム専任理事
伊藤 秀明	3 R活動推進フォーラム事務局長
河村 栄作	3 R活動推進フォーラム 事務局
指澤 佳代	3 R活動推進フォーラム 事務局

3. 3R活動推進フォーラム規約等 資料

3R活動推進フォーラム 規約

平成18年	5月31日	総会決定
平成19年	5月22日	一部改正
平成21年	5月12日	一部改正
平成22年	4月28日	一部改正
平成26年	5月23日	一部改正
平成29年	5月22日	一部改正

第1章 総 則

(名称)

第1条 本団体は、3R活動推進フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(所在地)

第2条 フォーラムは、事務所を東京都内に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 フォーラムは、国民、事業者、行政、研究機関等が一体となって発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3Rによる循環型社会づくりを推進することを目的とする。

(事業)

第4条 フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 3Rに関する研鑽・啓発
- (2) 3Rに関する先進的事業の実施・支援
- (3) 3Rに関する調査研究の実施・支援
- (4) 3Rに関する国内外の情報の収集、提供
- (5) 前4項に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会員)

第5条 フォーラムの会員は、フォーラムの目的に賛同して入会した団体をもって構成する。

(入会)

第6条 フォーラムの会員になろうとする団体は、フォーラムの趣旨に賛同し、入会申込書の提出をもって会員とする。

(負担金)

第7条 会員は、総会において別に定めるところにより、負担金を納入しなければならない。

2 自治体会員は負担金を免除する。

(退会)

第8条 会員がフォーラムを退会しようとするときは、その旨を届け出なければならない。

第4章 組織及び運営

(役員)

第9条 フォーラムに、次の役員を置く。

- 理事 30名以内
監事 2名

2 理事及び監事は総会において選任する。

- 3 理事のうち1名を会長、5名以内を副会長とし、それぞれ総会において選出する。
- 4 会長は、フォーラムを代表し、会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 理事のうち、1名を専任理事とし、総会において選出する。
- 7 専任理事は、事務局を総括する。
- 8 監事は、フォーラムの会計を監査する。
- 9 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

(顧問)

第10条 本会に顧問(若干名)をおくことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が指名する。顧問の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

- 2 顧問は、会長の求めに応じて本会の運営に関して助言をする。

(総会及び理事会)

第11条 フォーラムの議決機関として、総会及び理事会を置く。

- 2 総会は会長が招集し、役員任免、事業計画及び予算の決定、事業報告及び決算の承認、その他理事会が必要と認めた事項を審議し、議決する。
- 3 理事会は、会長が招集し、総会に付議すべき事項のほか、フォーラムの運営に関する重要な事項を議決する。

(企画・運営委員会)

第12条 フォーラムの組織、制度、事業計画について審議するため、企画・運営委員会を設置することができる。

- 2 企画・運営委員会の運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

(事業計画及び予算)

第13条 フォーラムの事業計画及び予算は、会長が作成し、理事会及び総会の議決を経なければならない。ただし、次の総会までの期間に係る事務局運営費については、総会において事後承認することができる。

(事業報告及び決算)

第14条 フォーラムの事業報告及び決算は、毎会計年度終了後、3ヶ月以内に会長が事業報告書、収支決算書として作成し、監事の監査を経て理事会及び総会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第15条 フォーラムの会計年度は1年とし、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 フォーラムの事務を処理するため、事務局を(公財)廃棄物・3R研究財団に置く。

- 2 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

第5章 雑 則

(委任)

第17条 この規約の施行について必要な事項については、理事会の決定するところによる。

附 則

この規約は、平成18年5月31日から施行する。

この規約の一部改正は、平成19年5月22日から施行する。

この規約の一部改正は、平成21年5月12日から施行する。

この規約の一部改正は、平成22年4月28日から施行する。
この規約の一部改正は、平成26年5月23日から施行する。
この規約の一部改正は、平成29年5月22日から施行する。

3R活動推進フォーラム 負担金に関する規定

平成18年5月31日 総会決定
平成22年4月28日 一部改正

規約第7条に基づき、次のとおりとする。

- 第1 会員は年会費として10万円を納付しなければならない。
- 第2 自治体会員の負担金は免除する
- 第3 規約第6条に基づき入会するに際し、会費の納入が困難である等特別の事情がある場合には、第1の規定にかかわらず会費の納入を免除することができる。
- 第4 負担金は、5月末日までに納付するものとする。

3R活動推進フォーラム 企画・運営委員会設置要領

平成21年 5月12日理事会決定

(目的)

第1条 3R活動推進フォーラム(以下「フォーラム」という。)規約第12条により、フォーラムに企画・運営委員会(以下「委員会」という。)を設置し、理事会から付託された事項または、会長より諮問された事項について審議することを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、会員及び会員外の有識者をもって構成する。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により選任する。

(招集)

第5条 委員会は、会長が招集する。

(委員会)

第6条 委員会は、フォーラムの組織、制度、事業計画について必要となる事項について審議する。

2 委員会は、審議に必要な調査を行うことができる。

3 委員会は、審議に必要と認める場合は、その目的に相応しい関係者を出席させることができる。

(審議事項の処理)

第7条 委員長は、委員会で審議決定した事項及び経過を理事会に報告し、または会長に答申しなければならない。

(附則)

この要領は平成21年5月12日から施行する。

≪ 3 R活動推進フォーラム事務局案内図 ≫



JR両国駅東口 徒歩1分 都営大江戸線両国駅A4出口 徒歩5分
J E I ビル 8階 (エレベータをご利用ください)

3 R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

年次報告書

令和4年度版 (2022年度版)

発行：3 R活動推進フォーラム

発行年月：令和5年4月

所在地：〒130-0026

東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F

公益財団法人廃棄物・3 R研究財団 内

TEL 03-6908-7311 FAX 03-5638-7164

E-mail : info@3r-forum.jp

URL : <https://3r-forum.jp/>

3 R活動推進フォーラム年次報告書は、2022年度 (2021年4月1日～2023年3月末までの事業報
を掲載したものです。



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

この製品は、古紙パルプ配合率 60%の再生紙を使用しています。このマークは、3 R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。